

訂正とお詫び

『どこへ行こうか、心理療法』（2022年3月発行）に誤解を招く表記がありました。修正してお詫び申し上げます。

株式会社 創元社

●107 ページ

[修正前]

107 心理臨床家をどう育てるか 村山正治×神田構隆治

しまろ学習は、すべて文字学習だとしています。
村山 ああ、確かにね。
神田構 体験学習は、束縛はないです。おのずから、状況に応じて変化していくから。文字文化は変化しないです。なぜかと言うと、文字文化というものは、変化させないことを使命と……。
村山 うん、そうですね。固定するための……。
神田構 そう、文字文化は何千年でも不変で存続するということを意識して生み出されてきた文化だから、内在化された場合に、文字言語由来の学習は、動かないわけです。そして、今度は、文字言語対文字言語の絡みで修正していく以外、手がないだろうと思います。
これが、言語を用いた精神療法であって、非言語的精神療法はそうではなくて、文字学習によって齎らされている命のほうに、エネルギーを手を賦活していくようなものとするならば、エンカウンターが深みを覗いていると言いか、想定しているものがいちばん中心になるのではないかと……今のところは、そういう理論構成で本書書いています。
村山 ああ、そうですね。それは、ある意味で、現代社会のとか、あるいは今世紀、二世紀のいちばん大きな課題ではないですか。
神田構 ねえ。
村山 とにかく文字とか、記号とか、そういうことですべてを置き換えてしまおう。それで、どれほど命が枯渇しているかということですね。
神田構 そこから離脱しようとする命の最大のも、最高のもでもない、際立った活動は、痲痺だと思えますよ、痲痺。文字言語でつくられた学習の一つの特徴は、目的と手段の

[修正後]

107 心理臨床家をどう育てるか 村山正治×神田構隆治

しまろ学習は、すべて文字学習だとしています。
村山 ああ、確かにね。
神田構 体験学習は、束縛はないです。おのずから、状況に応じて変化していくから。文字文化は変化しないです。なぜかと言うと、文字文化というものは、変化させないことを使命と……。
村山 うん、そうですね。固定するための……。
神田構 そう、文字文化は何千年でも不変で存続するということを意識して生み出されてきた文化だから、内在化された場合に、文字言語由来の学習は、動かないわけです。そして、今度は、文字言語対文字言語の絡みで修正していく以外、手がないだろうと思います。
これが、言語を用いた精神療法であって、非言語的精神療法はそうではなくて、文字学習によって齎らされている命のほうに、エネルギーを手を賦活していくようなものとするならば、エンカウンターが深みを覗いていると言いか、想定しているものがいちばん中心になるのではないかと……今のところは、そういう理論構成で本書書いています。
村山 ああ、そうですね。それは、ある意味で、現代社会のとか、あるいは今世紀、二世紀のいちばん大きな課題ではないですか。
神田構 ねえ。
村山 とにかく文字とか、記号とか、そういうことですべてを置き換えてしまおう。それで、どれほど命が枯渇しているかということですね。
神田構 そこから離脱しようとする命の際立った活動は、痲痺だと思えますよ、文字言語でつくられた学習の一つの特徴は、目的と手段の

[修正前]

非難なんですね。だから、目的と手段が同一である活動は、全部健康法になると思っています。痲漢は、痲漢のために痲漢をするんですよ。もう、とても充足たるものです。目的が手段でもあるんです。

賭け事は儲けるためにやっているけれども、どこかで三昧の境地に入ると思っています。三昧の境地というのが、健康法だと思っんです。

村山 健康法……。

神田橋 なかなかないけれども、痲漢はそうだな。その傍証は、目的と手段が離れている仕事をしている人ほど痲漢になりますね。学者さんとか、裁判官とか、あいつらたちは、やっぱり健康を何とか回復しようとする命の切ない動きとして痲漢をするんだろうなあ、そうじゃないかな。

村山 いや、確かに。それはものすごく大事なもので、僕が勉強していたフオーカシングなんかも、ちょっとそれに近いような線で進めているものもありますけれども、もっと踏み込んでいくというのか、「命」という言葉を使って人間の持っている何か生物としての良さというか、実現傾向が……。

神田橋 それに気がついた一つの経験は、識字率が低い人々というのが、今も日本にいます。識字率の低い、文字を読め書きできない人たちは、素晴らしい表情をしていますよね。

村山 はあ。

神田橋 声といい、身振りといい、とっても素晴らしい。それから、文字文化が十分に行き渡っていない、学校が出来ていない、まあ「未開の地」と言われているようなところの子どもたちが、日本の援助で学校が出来たと、万歳とか言っていますよね。あ

[修正後]

が同一である活動は、その人にはある意味で健康法になるのかもしれない。痲漢は、痲漢のために痲漢をするんですよ。痲漢は人を傷つける行為だからやってはいけないが、目的が手段でもあるという意味では、本人にとってはとても充足たるものなんです。

賭け事は儲けるためにやっているけれども、どこかで三昧の境地に入ると思っています。三昧の境地というのが、健康法だと思っんです。

村山 健康法……。

神田橋 健康法という用語があるけれども、本人にはそうかもしれない。その傍証は、目的と手段が離れている仕事をしている人ほど痲漢になりますね。やっぱり、バランスを回復しようとする命の切ない動きとして痲漢をしてみようじゃないかな。

そして、こういう人はきちんと起調される結果が必要ですね。起調で完成です。それが無いと暗転という新たな病気が生まれます。

村山 いや、確かに。それはものすごく大事なもので、僕が勉強していたフオーカシングなんかも、ちょっとそれに近いような線で進めているものもありますけれども、もっと踏み込んでいくというのか、「命」という言葉を使って人間の持っている何か生物としての良さというか、実現傾向が……。

神田橋 それに気がついた一つの経験は、識字率が低い人々というのが、今も日本にいます。文字を読め書きできない人たちは、素晴らしい表情をしていますよね。

村山 はあ。

神田橋 声といい、身振りといい、とっても素晴らしい。それから、文字文化が十分に行き渡っていない、学校が出来ていない、まあ「未開の地」と言われているようなところの子どもたちが、日本の援助で学校が出来たと、万歳とか言っていますよね。あ